

田中眞郎伊那混声合唱団指揮者50年記念

第43回

伊那混声合唱団演奏会

東日本大震災復興支援チャリティーコンサート

うたごえ

100人の鼓動



2013.7.6.Sat

18:30 Open 19:00 Start

長野県伊那文化会館大ホール

ごあいさつ

伊那市長／白鳥 孝

本日、第43回伊那混声合唱団演奏会が百名余の大合唱団を結成し盛大に開催されますことに、心よりお祝い申し上げます。

昭和33年5月に「伊那市民合唱団」として誕生して以来、今日まで活動を続けてこられた道のりは、団員の皆様が音楽を愛し、学び、真摯な努力の上に相互の強い団結があったからこそであり、運営に携わってこられた皆様方の努力の賜物と存じます。

本日は、かつての団員として活動された方々も加わり、思い出深い曲目も演奏されるとのことであり、長きに渡る合唱団の活動の歴史をお聞かせいただけることも期待するところです。

常任指揮者であります田中眞郎先生におかれましては、昭和39年以来、50年の長きにわたりこの合唱団を指導されているとのことで、その音楽への情熱とご努力に心より敬意を表します。更に、市内で活動する多数のコーラスグループ、毎年10月に開催している伊澤修二記念音楽祭の市民合唱団の指導もお務めいただいております。伊那市の音楽文化を牽引していただいていることに感謝申し上げます。

音楽や歌声は、人々の心癒す力があります。未曾有の被害をもたらした東日本大震災は未だ復興過程にあります。復興支援を目的の一つとするこの演奏会における皆様の歌声とお気持ちは、必ずや被災地へ届くものと確信しております。

合唱団の皆様には、合唱の楽しさを地域に広げる活動を実践していただいております。地域社会に安らぎを与え、音楽文化の振興と向上に大きな貢献をいただいておりますことに、生涯学習を推進する立場から深く感謝を表します。今後も市の発展のため変わらぬご支援をお願いいたします。

結びに更なる貴会のご隆盛と、関係各位の一層のご健勝を祈念いたしまして、ごあいさつとさせていただきます。

伊那谷の音楽文化を高めた伊那混声と田中先生

前伊那公民館長／武田 登

伊那公民館には90近いグループ・サークルがあり、その中に歌や合唱・器楽など洋楽・和楽合わせて音楽系のものが13ある。中でも歴史が古く現在も活発に活動しているものの一つが「伊那混声合唱団」である。

戦後間もない昭和33年に初代会長向笠静夫氏の合唱への熱い思いに応え、75名の団員が現在の創造館（旧上伊那図書館）に集まり、伊那市民合唱団としてスタートしたという。

その後、昭和39年田中眞郎先生が指揮者となり、以後50年混声の活動と田中先生の指揮は、伊那谷に音楽を育ててきた訳でその功績は計り知れないものがある。

毎年11月の伊那公民館の文化祭での、ひととき美しい歌声とハーモニーで聴く人の心を打つレベルの高い演奏は、手作りの市民による文化祭の、幅の広さと質の高さを示してくれていると思われる。

こうしたすばらしさは指揮者田中先生の指導と団員の質の高さによるものであろうが、加えてメンバーの姿勢が大きく影響していると思う。

混声の練習日は、毎週1回月曜日の夜、ピアノのある第2会議室であるが、演奏会が近づくとパートごとの練習のために調理室や畳の部屋でも歌い、更に、年間に予約されている練習日は、ほとんど休むことなくメンバーが来て活動していることも他と違う点である。

そして、男性の団員が多いことも特徴で、男性のパワーを発揮しつつ、男女のバランスがとれていることも長く続いている理由かと考えられる。

これからも伊那混声合唱団が田中眞郎先生と共に、伊那谷の音楽文化を育て、高める合唱団として、益々すばらしい演奏を続けられますよう、ご祈念申し上げます。

当時は振り返って

初代指揮者／清水立善

田中眞郎先生、伊那混声合唱団常任指揮者50年、おめでとうございます。

昭和31年、私が伊那弥生ヶ丘高等学校に赴任し、同時に十数人で歌っていた伊那コール・グリュンの指導を行い、この合唱団を元に伊那市民合唱団に発展的に拡大されました。

この合唱団に、音楽大学を卒業し赤穂高等学校に赴任された田中眞郎先生が入団され、共に合唱団づくりに尽力していただきました。先生はご熱心で毎週赤穂から伊那市まで合唱練習に来られました。ヨハン・シュトラウスの「美しく青きドナウ」の合唱づくりに苦勞していた合唱団でしたが、先生は積極的に合唱づくりに参加され、真剣に歌っておられました。堤温先生のご指導をいただいて、演奏会のための曲づくりをし、岐阜市において岐阜混声合唱団との交流演奏会を行いました。合唱発表に力を尽くされ、演奏会を盛り上げていただきました。

昭和39年4月に、私が長野県庁内教学指導課へ転勤するに当たり、田中先生の下宿を伊那市内に見つけて移動していただくことにし、同時に伊那市民合唱団の指揮者を引き継いでいただくようお願いいたしました。

その後、伊那混声合唱団と改名され、団員も倍以上に増加され、合唱内容も高度なものに取り組み、いよいよ充実発展いたしました。更に、田中先生は声楽を堤温先生に、指揮法を前田幸市郎先生に師事し、音楽の基本的な勉強を重ねられました。

伊那混声合唱団がいよいよ充実されるにつれ、広く社会から認められ、長野県合唱連盟主催のコンクールにおいて県代表となり、中部合唱コンクールに入賞するなど、長野県内の代表的な合唱団の一つとなりました。これらの大きな成果は、田中眞郎先生の指導力と合唱団員の皆さんのご努力によるものと思います。

伊那混声合唱団をこれまでにさせていただいたことに感謝し、更なる発展を祈ります。

記念演奏会に寄せて

初代団長／向笠静夫

古来より「創業は易く守成は難し」と言われていますが、その難しい存続発展を50年も続け、今尚盛んという伊那混声合唱団の姿は、何と逞しく素晴らしいことでしょう。

ひとえに伊那に永住の上、後藤忠雄先生、清水立善先生のあとを一手に引き受け、二代目指揮者として、自ら常に勉学を怠らず豊かな音楽性・指揮法に磨きをかけつつご指導くださっている田中先生のお蔭です。とともに先生を支え、毎年合唱団の脱皮を図ってこられた歴代役員の並々ならぬ努力の賜でもあると思います。それは団の50年の活動内容を振り返ってみれば歴然です。

田中先生は伊那混声のみならず、幾つもの合唱団のご指導やイベントの開催など続けられており、正に伊那音楽文化育ての親でもあります。

今回この価値ある節目の演奏会にOB・OGの一員として出演できることは大きな幸せであり、聴きにきてくださった皆様に少しでも歌う喜び、合唱の楽しさをお届けできればと願いつつ、精一杯歌います。

人情厚く包容力豊かな伊那の風土に恵まれ、伊那混声が益々発展していくことは間違いなしと確信します。

指揮者生活50年目を迎えて

常任指揮者／田中眞郎

この合唱団は昭和33年初代団長の向笠静夫さんを初め、多くの方々のお力により発足し、清水立善先生、後藤忠雄先生を指導者に迎えられ歩んでおられる中、私は昭和35年に入団させていただきました。後藤先生はお亡くなりになりましたが、合唱団として順調な歩みが続ける中、昭和39年3月、清水先生が県教委へのご栄転になられ、私が後任をお引き受けすることになりました。

以来50年、格別な才能も持ち合わせていない私を、よくも追い出さないで育ててくださったというのが正直な感慨です。おかげさまで体調を崩して休むことなどほとんどなく、大好きな合唱と共に歩み、多くの方々と接して来られたことはこの上ない幸せと感じています。

今回私の指揮者50年を祝って、特別な企画を立てていただき、80余名にも及ぶOB・OGの方々が駆けつけてくださいました。何回かの練習にも参加していただき、ステージにも立っていただき感激でございます。今夜はお越しくございましてありがとうございます。どうぞごゆっくりお聴きください。

田中先生の50年目を祝って

伊那混声合唱団団長／竹松成史

本日は田中眞郎伊那混声合唱団指揮者50年記念、第43回伊那混声合唱団演奏会にお越しいただきありがとうございます。

『継続は力なり』という私の大好きな言葉があります。昭和33年に伊那市民合唱団として始まった伊那混声合唱団は今年で55年を迎えました。市民の合唱団としては長い方だと思います。多くの団員がこの長い歴史を築いてくれました。そして、その歴史の中の50年間を田中眞郎先生が常任指揮者として率いてきました。これも市民の合唱団指揮者としてはとても長い方だと思います。

一つのことに没頭し50年間継続すること自体とても凄いことだと思いますが、練習をほとんど休むことなく、時間にも遅れることなく来てくださる田中先生には感謝の念でいっぱいです。

今回、これらに感謝し、お祝いする企画として、演奏会の一部をOB・OGの皆さんとの合同ステージとしました。過去の団員名簿をありったけ調べなおし、リストアップしたOB・OGの名前が250余名。その名簿をベテラン団員を中心に取りまとめ、ステージ共演をお誘いしました。その中から今回共演していただくのが79名です。遠方からも参加していただいております。

現団員を合わせた112名で、当団の財産である「愛唱歌集」から5曲、思い出深い合唱組曲から3曲を歌います。限られた練習回数でしたが、懐かしく、楽しく、そして心を合わせて練習してきました。大人数で歌うことはとても感動的で、特に往年の名曲は歌う度にジーンと来ます。練習でも歌う度にそうなのですから、今夜の本番はどれほどの喜びがあるのだろうか、この文章を書きながらもワクワクしています。

今夜、この場所にいらした皆さまとご一緒できるのは本当に素敵な縁です。この縁に感謝し、今後も継続することを願いながら一生懸命に歌います。そして、一緒にこの夜をお祝いし、一緒に感動していただければこんな嬉しいことはありません。

本日は本当にありがとうございます。

昭和33年5月に“伊那市民合唱団”として誕生し今年で活動開始より55年目となる。昭和48年1月に団の名称を“伊那混声合唱団”と改めた。昭和39年より田中眞郎先生に常任指揮者をお願いしている。現在34名の団員が合唱を楽しんでいる。

昭和35年11月に結成した南信合唱連盟に当初より所属し、伊那市民合唱団から役員として理事に田中眞郎先生、監事及び長野県合唱連盟への代議員に向笠静夫氏が参加した。以降、田中眞郎先生、平澤誠氏の理事長を筆頭に、副理事長、主事、常任理事等、連盟の運営にも積極的に参加している。

自主開催の演奏会は今回で43回を数える。ここ数十年は参加を控えているが、合唱コンクールにも数多く参加し、合唱技術と意識の向上を図ってきた。現在も長野県合唱連盟、南信合唱連盟主催の合唱講習会等には多くの団員が積極的に参加している。

その他、南信合唱祭、い〜な音楽祭、公民館文化祭への参加や、施設での慰問演奏など、合唱の楽しさと素晴らしさを地域に広げる活動を積極的に行っている。また、市民参加の演奏会においても、中心団体として合唱の底上げに貢献してきた。



常任指揮者 田中眞郎 (たなか しんろう)

1937年、飯山市生まれ。新潟大学教育学部芸能科音楽科卒業。声楽を堤温、岡部多喜子、移川澄也に、指揮法を故前田幸市郎に師事。上伊那の7高等学校で主に合唱関係クラブの育成に努めた。伊那混声合唱団の常任指揮者として今年で50年。現在、伊那混声合唱団、高遠山すそコーラス、はるちかコーロ・フェリーチェ指揮者。歌唱サークル「歌のワ」指導者。毎年開催される伊澤修二音楽祭の市民合唱団の指導も務めている。いな少年少女合唱団設立時指揮者。



ピアノ 平澤まゆみ (ひらさわ まゆみ)

武蔵野音楽大学器楽学科ピアノ専攻卒業。卒業後、自宅にて教室を主宰すると同時に飯田女子短期大学非常勤講師、伊那北音楽教室（幼児科、中高生のソルフェージュ科）を5年間務める。ピアノを伊藤直子、建石敏子、田辺融、松山淳子、今泉統子の各氏に、ソルフェージュ指導法を伊藤征夫氏に師事。現在は自宅にてピアノ・ソルフェージュ等後進の指導にあたる他、高齢者の施設にて音楽療法を行っている。音大を卒業後、伊那混声合唱団の伴奏者となり、手作りの第九伴奏や、春富中学校のコンクールとオペレッタの伴奏を務めた。伊那混声合唱団・飯島女声コーラス・諏訪形童謡コーラス・こもれびカルテット伴奏者。



ピアノ 田中 健 (たなか たけし)

伊那市出身。東京音楽大学ピアノ専攻卒業。同大学院伴奏科修了。大学院在学中に特待生奨学金を受ける。

声楽分野（オペラ、各国歌曲、合唱）の共演ピアニストとして、軽井沢大賀ホール「八月祭」、Hakujuホール「リクライニングコンサート」、京都国際交流フォーラム主催「チャリティーオペラガラコンサート」、山口市主催「中原中也生誕百年記念前夜祭」、川口リリア「歌の花束」など、各地のコンサートにおいて多くの歌手と共演を重ねている。また、東京混声合唱団、東京交響楽団専属・東響コーラスなどの合唱団、二期会などのオペラ団体等の音楽スタッフとしても活躍している。

これまでにピアノを建石敏子、田邊融、草川宣雄、岡藤由希子の各氏に、伴奏法を水谷真理子、御邊典一、田島巨祥の各氏に師事。

第6回日本アンサンブルコンクール歌曲デュオ部門、小佐野英子賞（部門一位）。第1回ウィーンオペレッタコンクール最優秀伴奏者賞受賞。フランス歌曲研究グループ「ムーヴマン・ペルペチュエル」ピアニスト。『Foster Japanese Songs』プロジェクトメンバー。伊那市ふるさと人材バンク登録メンバー。

現在、サントリーホール オペラ・アカデミー ピアニストメンバー。東京音楽大学声楽科伴奏助手。

Opening 指揮/田中眞郎

Gaudent In Coelis Animae Sanctorum Tomás Luis de Victoria/曲 皆川達夫・高野紀子/編

1 Stage モンテヴェルディ選集 指揮/田中眞郎

Ecco mormorar l'onde Torquato Tasso/詩 Claudio Monteverdi/曲

Sfoga con le stelle Ottavio Rinuccini/詩 Claudio Monteverdi/曲

Ditelo voi Scipione Agnelli/詩 Claudio Monteverdi/曲

Dara la notte il sol Scipione Agnelli/詩 Claudio Monteverdi/曲

2 Stage 混声合唱とピアノのための四つの日本民謡『北へ』 指揮/田中眞郎 ピアノ/田中 健

大漁唄い込み 宮城県民謡 松下 耕/曲

俵積み唄 青森県民謡 松下 耕/曲

津軽山唄 青森県民謡 松下 耕/曲

ソーラン節 北海道民謡 松下 耕/曲

◆◆◆ 休憩 ◆◆◆

3 Stage 伊那混声合唱団愛唱歌 指揮/田中眞郎 ピアノ/平澤まゆみ

スタイン ソング(乾杯の歌) 訳詞者不明 フェンスタード/曲 川崎祥悦/編

アイスクリームの歌 佐藤義美/詩 服部公一/曲 増田順平/編

帰省 作詞者不明 ドイツ民謡

線路はつづくよどこまでも 佐木 敏/詞 アメリカ民謡 小林秀雄/編

大きな古時計 保富庚午/訳詞 H. C. Work/曲 小林秀雄/編

ふるさと 文部省唱歌 伊藤辰雄/編

マイ マイ マイ 山上路夫/訳詞 ジャック ウィンスレー・ポップ セイカー/曲

4 Stage 思い出のステージから 指揮/田中眞郎 ピアノ/平澤まゆみ

飛翔ー白鷺(混声合唱組曲「内なる遠さ」より) 高野喜久雄/詩 高田三郎/曲

川(混声合唱組曲「水のいのち」より) 高野喜久雄/詩 高田三郎/曲

美しく碧きドナウ 堀内敬三/詩 ヨハン シュトラウス/曲

山を憶う(混声合唱組曲「山に祈る」より) 清水 脩/構成・詞・曲

蔵王讃歌(混声合唱組曲「蔵王」より) 尾崎左永子/詩 佐藤 眞/曲

河口(混声合唱組曲「筑後川」より) 丸山 豊/詞 團伊玖磨/曲

Gaudent in Coelis Animae Sanctorum

作曲家ヴィクトリア(1548~1611)スペイン生まれの作曲家で、イタリアの生んだパレストリーナと並び称される、ルネッサンス期の大家である。彼の音楽はパレストリーナ以上に神秘的な情熱と迫力に満ち、日本でも広く愛唱されている。曲は歌詞に相応しく、宗教的喜びに満ちている。

モンテヴェルディのマドリガーレ

作曲者のモンテヴェルディ(1567~1643)イタリア生まれの作曲家で、オペラや数多いマドリガーレの作品に天才ぶりを示した。マドリガーレの第1巻から4巻あたりまでは、16世紀のポリフォニー書法で構成されているが、それ以後の巻では次第に大胆な不協和音や朗唱風の旋律を用いて劇的な表現を目指すようになった。

Ecco mormorar l'onde

マドリガーレ第2巻の中の一曲で、自然の移ろいの中で心が癒されていくさまを歌っている。

Sfoga con le stelle

第4巻の中の曲で、星に向かって恋人への愛を届けて欲しい、また、自分に愛を向けて欲しいと頼む歌である。

Ditelo, Dara la notte ill

6巻に収められている「愛する女の墓に流す恋人の涙」全6曲のうちの2曲目、3曲目である。亡き恋人への哀切の思いが綿々と歌われる。

伊那混声合唱団ではこうしたルネッサンス期の合唱曲や、ヘンデルの「メサイア」、モーツァルトの「レクイエム」、ハイドンのミサ曲など、古典の作品も選曲の大きな柱の一つとして取り組んで参りました。

混声合唱とピアノのための四つの民謡「北へ」

東北地方と北海道の有名な民謡4編を素材に、チャレンジ精神に富んだ編曲がなされている。この曲に散りばめられた非日本的なハーモニーやリズムは、ときに原曲と美しく融合し、ときにハードに反発し合う。しかしその魅力こそ作曲家の求めたものである。

私は日本的な素材を元とした合唱作品に以前から魅力を感じており、大変な難曲でしたが挑戦してみました。今回は特別な機会なので息子と初共演させていただきました。

線路は続くよどこまでも

原曲は1863年から始まった、アメリカ横断鉄道建設に関わったアイルランド系工夫たちによって歌われたもので、線路工夫の過酷な労働を歌った労働歌である。1962年NHK「みんなのうた」の中で「線路は続くよどこまでも」として紹介されて以降、ホームソング・童謡として愛唱されるようになった。

大きな古時計

作曲家ヘンリー・ワークは、劇場公演のため1874年イギリスに渡り、ジョージホテルに泊まった。ホテルのロビーにあった針の止まった大きな時計に興味を持ち尋ねると、ホテルの主人は静かに語り始めた。このホテルはジェンキンスという二人兄弟の経営するホテルで、この時計は兄の生まれたときに買ったものだという。いつも正確に時を刻んでいたが、弟が亡くなると遅れ始め、やがて兄も病で死んだ。その死を聞きかけつけた人たちが時計を見て騒然となった。何と兄が亡くなった時刻、すなわち11:05分で針は止まっていたのである。この時計は現存している。

飛翔ー白鷺

共にカトリック信者の高野喜久雄、高田三郎のコンビによる作品である。白鷺をはじめとし、生きるものはみな美しくかけがえのない命を生きている。それらはみな不可視の高さから『生きよ』と命じられたものを生きている。内なる遠さへの限りない問いと、応答を繰り返しながら…。

川

「水のいのち」は雨、水たまり、川、海、海よ、の5曲から成り、水の輪廻を描いているように見られがちであるが、水の様々な姿に作詞者の宗教的な願いが込められている。

「川」：空の高みへのこがれを持ちつつも、下へ下へと流れてゆく川の姿に人の姿を重ねている。

美しく碧きドナウ

1866年の普墮戦争に大敗し、失望に沈んでいたウィーン市民を慰めるために作曲された。当初男声合唱として書かれたが、「くよくよするな」「悲しいのか」などの歌詞が凶星だったためか、反響は好ましいものではなかった。そのため管弦楽用に書き直したところ人気が上昇した。

山を憶う

昭和34年秋、長野県警本部は山での遭難の頻発に業を煮やし、遭難者の遺族たちの手記を集めた「山に祈る」という小冊子を発行して遭難防止を訴えた。ダークダックスはその巻頭に載った、上智大学山岳部の飯塚揚一君の遭難を、同君の日誌と母親の手記によって一編の合唱組曲「山に祈る」を作る企画を立て、その構成、作詞、作曲を清水脩氏に依頼し、この合唱組曲が誕生した。

「山を憶う」：全6曲からなる組曲の中核となる曲で、何故山に登るのかを問う重みのある曲である。

蔵王讃歌

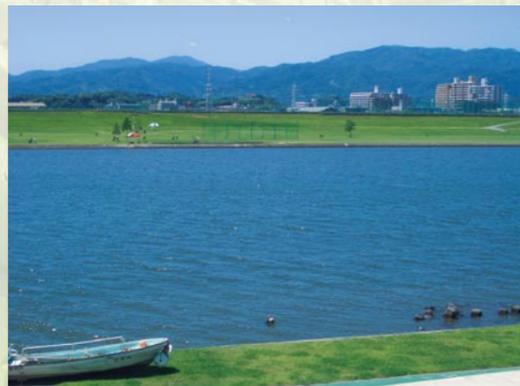
合唱組曲「蔵王」は、昭和36年度文部省第16回芸術祭合唱部門参加作品として、ニッポン放送の依頼を受け、佐藤真により作曲された。

「蔵王讃歌」：全9曲からなる組曲の第1曲で、みちのくの空にそびえる蔵王の壮大な姿を歌っている。

河口

合唱組曲「筑後川」は1968年、その前年にできあがっていた丸山豊さんの詩によって、九州の久留米音協合唱団の創立5周年を祝って作曲された。

「河口」：「みなかみ」「ダムにて」「銀の魚」「川の祭」「河口」の5曲からなる組曲で、阿蘇外輪の溶岩の寝床から生まれた流れが、周辺のいろいろなものに出会いながら、大河となり有明海にそそぐさまを描いている。



●現役団員 (太字はパートリーダー)

ソプラノ Soprano

池田純子 小口佳枝子 長田ちず子 北原由美 木下澄子 高見さゆり 武田志保
馬場優子 平澤まゆみ 廣松ゆかり

アルト Alto

有賀嗣子 石川従子 岡理恵 小田由美子 北原美智代 小林祥子 中村乃ぎ子
半崎順子 堀越景子 吉澤久美子

テノール Tenor

伊藤 潔 上野皓也 澤田隆博 中島俊博 林 正弥 平澤 誠

バス Bass

市原新太郎 伊東千織 伊藤常雄 植木義和 竹松成史 竹松武登 根岸義和

●OB・OG合唱団

ソプラノ Soprano

大倉恵美子 大谷洋子 加藤和子 唐澤靖子 久保田恵美子 倉澤成子 小田切孝子
小松紀子 渋谷千佳子 千田寿美子 滝澤美恵子 竹内みつよ 竹松真実 田中久美子
長島ひさよ 中村くみ江 中村繁子 橋爪きく子 原千鶴 原淑美 福澤あき子
藤澤道子 松本ことみ 丸田恭子 三澤和恵 宮尾春代 宮原美幸 向山弘子

アルト Alto

池上洋子 大久保照子 太田由美子 小口ゆき子 柿野いく子 春日瑞枝 加藤みすず
唐澤和枝 唐澤ひろ子 吉瀬定子 北原美佐子 清川美幸 小林英子 酒井啓恵
佐々木紀世子 下島典子 高井由美子 高木美咲 竹松里美 竹松ますみ 田中佐歌子
坪木いづみ 遠山淳子 中島綾子 中山房子 名和由子 橋爪えりか 橋爪久美子
福田里美 藤網みどり 古田寿子 矢澤令子

テノール Tenor

阿部裕吉 飯島克己 池上忠人 池田 満 大内丈司 唐澤大助 唐澤智大
唐澤由寛 北原房雄 久保田和弘 後藤芳和 高見親久

バス Bass

安藤徳光 沖村 厚 小坂 岳 黒田 強 下平順治 向笠静夫 宮澤喜好



私の初舞台、第2回演奏会のメインは合唱組曲「山に祈る」でした。団員が山から活きの良い葉っぱのついた太いつたのつるを切ってきてステージに飾ってくれました。とても曲の雰囲気作りにプラスになりました。(田中眞郎)



曲のイメージを高めるために登った西駒ヶ岳

歌えなかったウイナーワルツ!

昭和33年、伊那市民合唱団として発足し、翌年5月第1回定演のメインの曲は「美しく碧きドナウ」でした。まだテープレコーダーもない時代、いくら練習しても、どうしてもワルツのリズムがとれなくて、本番まで大変でした。また“うたごえ喫茶”の盛んな時代。振り返れば今回で5回目の「美しく碧きドナウ」となります。(石川従子)



演奏中2度の停電

当時は伊那市民会館で演奏会を開催していましたが、その第14回定期演奏会での出来事です。第1ステージ「水のいのち」の第1曲「雨」の冒頭、“降りしきれ雨よ”と歌い出した途端、鋭い稲光りとともに場内真っ暗。しかし、ピアノの伊藤直子さんは、真っ暗闇の中いっときも止まることなくその曲を弾き切ったのです。合唱の方も少しは動揺ありましたが歌いきりました。期せずして場内から大きな拍手。そして何人もの人がステージに懐中電灯を届けてくれたのです。20分ほどして電気が点きました。

その後の田楽座との共演ステータでも雷で停電に見舞われました。(田中眞郎)

先生も青年であった頃のこと!

先生は飯山のご出身で、よくスキーの話がされました。多くの団員もまだ20代でした。そこでぜひ飯山に行きたいとお願いしました。先生のご実家はお寺さんで、皆で本堂に泊めていただき、皆でご馳走になりました。翌朝お姉さんの作ってくださったおにぎりの味、大勢で楽しんだスキーの旅は青春の思い出です。(石川従子)



20周年記念演奏会に声優の加道道子さんをお招きして、再び「山に祈る」を演奏しました。朗読の『最初のひとこえ』だけで雰囲気を作り出してしまう力に感動しました。(田中眞郎)



高田三郎先生客演

金沢で行われた全日本合唱コンクール中部大会で、同点一位ながら惜しくも全国大会出場を逃したときの審査員のおひとりが高田先生。その日をお願いして、次の年の演奏会に指揮をしていただきました。今日歌う「内なる遠さ」と「水のいのち」全曲です。練習のときはカルチャーショックを感じるほどの恐い指導でしたが、そのほかのときの先生は別人でとても穏やかな紳士的な方でした。(田中眞郎)

オーケストラ付きでオペラの曲やミサ曲を演奏したこと

日本新交響楽団に来てもらい、オペラの曲やハイドンの「戦時のミサ」、ケルビーニの「ミサ 八短調」を指揮させていただきました。オケ付きの曲を指揮することができたのは格別な喜びです。(田中眞郎)

前田幸市郎先生の「メサイア」「モツレク」

指揮法を教えていただいた前田先生をお招きして、ヘンデルの「メサイア」、モーツァルトの「レクイエム」を指揮させていただきました。端正な指揮ぶりで、格調高い演奏を引き出してくださいました。(田中眞郎)

初めてのコンクール♪

今から40年前のこと。昭和48年伊那市民合唱団から伊那混声合唱団に改名し、大いに燃えるところとなりました。翌年の定期演奏会は筑後川をメインに持って行き、最後のフィナーレに酔いました。総勢83名での演奏は壮観でした。その勢いでコンクールの県大会で金賞を取り、初めて中部大会に進みました。中部大会は三重県の伊勢文化ホールで行われました。まだ中央道が伊那まで来ておりませんでしたので、大平峠を越えて木曾路に出る道順で6時間もかかり、夫婦岩近くの旅館に入ったのは夕暮れを過ぎていました。食事を済ませて、浴衣に着替えた男性も何人かいました。田中先生が遅れて到着されて、明日に備えて広間での練習となりました。並んだ浴衣姿の団員を見て、さすがに温厚な先生も気色走る顔立ちとなりました。「これはまずい」と三々五々服を着替えに行き、やっと練習が始まりました。翌日の伊勢文化ホールは素晴らしく、長野県ではお目にかかれない音響でした。自由曲は筑後川より「銀の魚」で、80名の合唱には審査員もビックリでした。結果は努力賞ということで、これからが期待されることとなりました。(OB:黒田 強)



昭和52年合唱コンクール中部大会出場(福井)

コンクール受賞歴

伊那混声合唱団は合唱コンクールにも積極的に参加し、合唱技術の向上を目指してきました。

- 県大会出場 …… 31回
- 県代表 …… 14回
- 県総合一位 …… 5回
- 中部大会銀賞 …… 4回
- 銅賞 …… 4回
- 優良賞 …… 1回



素顔の先生と足跡

真面目で、照れ屋で、冗談の言えない先生! 少しお酒がまわると断然タガが緩み、ますます話がはずみます。また、昔のことをよく覚えておられるのは驚きです。振り返れば先生の指揮者としての50年は、伊那に大きな息吹を残して下さっています。これは伊那にとって大きな力です。

多くの子弟を育て、子どもたち(少年少女)、お母さん方(女声合唱)地域の合唱グループ、そのいずれにも元伊那混メンバーが歌う喜びを伝えています。(石川従子)

田中眞郎先生と音楽

もう、二十年余り前のことです。当時私は新米教師として高遠高校に勤務していました。私を含む、若い担任4人を率いて学年主任をしていただいたのが田中先生でした。その頃現場では多くの困難な課題を抱えていました。その中で田中先生は非常に冷静に課題を捉え、解決に向けて若い私達を暖かくリードし続けてくださいました。一方で先生は伊那混声合唱団や、いな少年少女合唱団などの指導にも精力的に取り組んでおられました。ある時家庭訪問に行った帰り途に、一体先生のバイタリティーはどこから生まれるのかと先生に尋ねてみました。すると先生は、「あそこに(練習)に行くことでおらぁ頑張れるんかなあ。」とお答えになったのを忘れることができません。先生は、教育の現場では常に生徒と同僚のことを大切に考えてくださいました。同様に音楽の場でも、今も先生の暖かな眼差しは音楽と音楽を心から愛する人々に惜しげなくそそがれ続けているのではないのでしょうか。(元同僚:竹松ゆかり)

協賛

〈アイウエオ順敬称略〉

池上医院

神山内科医院

池田ピアノ技研

(有)北野屋精肉店

(株)伊藤コーデン

(株)玉扇グローバル

伊藤まいたけ園

清水耳鼻咽喉科医院

伊東由香バレエスクール

工房 **竹松**

(有)伊那スズキ

(株)テク・ミサワ

小木曾歯科医院

馬場歯科医院

(有)片桐製作所

株式会社 フォレストコーポレーション

以上の皆様には、今回の演奏会にご協賛いただきました。
ありがとうございました。



学生は入団
無料!

伊那混声合唱団

学生は団費
学割!

メンバーを募集しています!

歌の大好きな人なら、
どなたでも大歓迎です!

一緒に楽しみましょう。

- 練習日 / 毎週月曜日 午後7時30分～9時30分
- 練習場所 / 伊那公民館 (伊那市中央5053)
- 常任指揮者 / 田中眞郎
- 副指揮者 / 平澤 誠
- ピアニスト / 平澤まゆみ

- 連絡先 / 0265-78-8721 (団長 / 竹松成史)
 - 募集期間 / 随時 (気軽に見学に来てください)
 - 入団資格、及び条件 / なし (歌の好きな方ならどなたでも大歓迎)
 - 学生特典 / 高校生団費無料、大学生団費半額
- ホームページをご覧ください